

# メダカが泳ぎ子どもが笑う 地域の絆を深める米づくり



自：自然共生  
資：資源循環  
低：低炭素

## キーワード

地方創生／官民連携／環境配慮型農業／  
水辺の保全・活用／食／ブランド化／  
健康・美容

## フィールド

東北  
(岩手県) ・ **里**

## 実施体制

一関市、農事組合法人門崎ファーム／  
門崎メダカファンクラブ（農家・市民）／岩  
手大学



## アクションの目的

環境に配慮した施設整備及び農業を実践することで、自然共生社会を実現すること。

## アクションの背景

一関市の門崎地区において、2004年から10年間をかけて、水田1枚あたりの面積を広げるとともに、水路を水漏れの少ないようにコンクリート化する圃場整備を行う県の計画があった。

しかし、同地区ではメダカが多く生息していたことから、岩手大学の教授が、メダカと共存する米づくりについての呼びかけを地区の農家に対して行った。農家同士で話し合い、メダカに配慮した整備を行うことに決め、2013年に農事組合法人門崎ファームを設立した。

## アクションの内容

### 【「門崎めだか米」・ブランド化】

メダカと共存する米づくりを目指して、以下の取組を実施。

- ①メダカがすめるように土水路を一部残し、セキ上げ工や往来工、魚道等を整備して、時期に応じて適切な水管理を行い、メダカが水田と水路との間を往来できるようにする。魚道は、泳ぐ力の弱いメダカに配慮し、流路をジグザグにして流れを弱める。
- ②農薬や化学肥料の使用を通常より50%減らす特別栽培を実施する。以上の取組を行い、メダカが水路と水田を往来できる環境整備がなされている水田で作られたお米を「門崎めだか米」として販売。環境保全米としてアピールをしつつも、食味値が下がらないように注意を払っている。

### 【農村体験ツアーや収穫祭などのイベント】

市が事務局を務める農村体験ツアー、田植えや生きもの調査及び収穫祭などの様々なイベントを開催し、門崎地区のファンづくりに取り組んでいる。

## アクションのポイント

◎継続して活動を行っていくために、農家と市民で「門崎メダカファンクラブ」を結成し、様々なイベントを開催したり、積極的な情報発信をしたりしながら、取組を支える門崎地区のファンづくりに努めている。

## アクションの効果

- 取組開始後、メダカの生息数はおおむね維持されている。
- インターネットや百貨店、首都圏や関西圏などの米屋において、慣行栽培米より高い単価で販売している。
- 一般を対象とした田んぼの生きもの調査等を通して、地元の小学生や京都や大津など都市部の人々との交流が生まれている。